

3 中学部研究の経過報告

(1) 1、2学期の取り組み

年度初めに新転任の教員を中心に昨年までの取り組みと学習評価についての確認を行い、昨年度の成果と課題を基に学部全体で共通理解をして、今年度の研究を継続して進めていけるようにした。また、「単元計画表」「Pシート」「生活単元学習の流れ図」の書式や書き方、中学部として生活単元学習の授業を計画する際には、社会科や理科を中心とする単元について検討することを確認し、各学年で計画を立てる時間を設けた。

1学期は6～7月単元において、「単元計画表」と個の「Pシート」（各学年で事例対象生徒を挙げた）を活用し、授業づくりを行った。「Pシート」の作成では、3年生は1学期には総合的な学習の時間の単元を計画していたため、1、2年生の教員とペアを組んで作成をした。初めて「Pシート」を作成する教員からは、ペアで作成することにより、分からないところを相談しながら進めることができたとの感想が聞かれた。また、7月の中学部1年生「探検隊千葉レンジャー」の授業について「単元計画表」をもとに、①目標について②目標が達成できるための内容について③生徒が主体的に活動できるための手立てについて学部の教員を少人数のグループに分けて検討した。「①単元で扱う範囲が大きいので、生徒のゴールをどこにするか明確にした方がよい②大きな地図を用意して、学んだことや成果について視覚的に捉えられるようにするとよい③衣装を着たり制作したりすることで、楽しみながら体験的に学習できるとよい」などの意見が挙げられ、単元計画に活かすことができた。部内授業研究会の後には、学習評価を実施するとともに、各学年で授業についてを振り返り、次単元（1年：9月、12月単元、2年生：11月～12月単元）についての「生活単元学習の流れ図」の作成を行い、授業計画を立てた。

2学期には、作成した「流れ図」「単元計画表」を基に、各学年の取り組みについて、前単元のまとめ、評価規準、取り入れた教科の内容、次単元の授業計画を中心に共有する時間を設けた。また、10月には7月末に立案した「生活単元学習の流れ図」を基に、11～12月単元の「単元計画表」「Pシート」の作成を行い、授業を実施した。授業実施後には「単元計画表」「Pシート」を用いて単元全体についての評価や個別の学習評価を行った。そして、各ツールを使い、授業を計画したことで、どのような利点や改善点があるかについて各学年で協議を進め、次年度に向けて各ツールの見直しをすることができた。※内容については(3)に記載

(2) 学習評価を基にした授業改善を通しての授業づくり（中学部1年生）

1年生は、「単元計画表」を基に6月の学部研究会で出された意見を踏まえて、授業計画を見直し授業づくりを行った。7月には、学部授業研究会を実施し、「目標を達成することができるための手立てだったか」「主体的な姿が見られたか」「より主体的に活動できるための手立て、授業改善」の3つの協議の柱に沿って、学部の教員を少人数のグループに分けて授業改善に焦点を当てた協議を行った。また、7月に実施した「探検隊千葉レンジャー」の部内授業研究会の協議を受けて授業を改善したり、次単元の「流れ図」や「Pシート」の作成へつなげたりすることができた。

<協議で出された意見について（抜粋）>

① 目標を達成できるための手立てだったか

- ・電車やサーフィンの映像をテレビ画面に映すなど、ICT機器を活用したことが言葉や文字だけでなく分かりやすかった。
- ・地名のヒントが「チーバくんの耳」「チーバくんの背中」など例えたことで覚えやすく、答えることができた。

② 主体的な姿が見られたか

- ・全体の活動では、手を挙げて発表をする様子や自分から立ち上がって踊ったり、振り付けの意味を言いながら踊ったりする様子が見られた。
- ・グループ別活動では、スライドを見てワークシートの穴埋めをしたり、自分から制作活動に集中して取り組んだりする様子が見られた。

③ より主体的に活動できるための手立て、授業改善

- ・各グループの発表を何のためにするのかを意識できるようにしたり、映像に撮って振り返ったりできると良い。
- ・その日に取り組んだ制作物の完成を意識できるように活動内容を精選し、工夫できると良い。

<部内研究会実施後の職員アンケートより>

- 協議の三つの柱が具体的で実践に生かせる内容だった。事前に付箋に書いて意見を出し合ったことで、限られた時間を有効に使うことができた。
- 手立てや授業の改善点など、今後の授業づくりに向けて勉強になった。
- 授業の手立てや子どもの姿についての協議だったので、授業にすぐに活かしやすかったと感じた。

(3) 各ツール（「単元計画表」「Pシート」「生活単元学習の流れ図」）活用方法の改善策について

中学部では1、2学期の取り組みを踏まえ、各ツールの効果的な活用について、各学年で話し合いを行った。各学年の意見の概要は、以下のとおりである。

	良い点、継続できる点	活用する上で難しい点、具体的な改善策
単元計画表	<ul style="list-style-type: none"> ○日頃の単元から活用できている。 ○簡素化されていて分かりやすい。 ○実態からどんな目標にするか書く欄があり分かりやすい。 ○単元の目標や授業計画を共通理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●目標と日程のみにして流れ図と書式を一緒にできると良い。 ●行事単元が多い学年は、自由に内容を考えられる単元が少なく、活用しにくい。生活単元だけでなく、総合などのすべての教科や指導形態に生かせると良い。
Pシート	<ul style="list-style-type: none"> ○実態に合わせてグループ分けをしたり、課題を見つけたりするのに活用できる。 ○評価基準から観点ごとに個の目標や手立てが分かりやすい。 ○教科の視点を考えるきっかけになった。 ○評価の部分を活用して、通知表をスムーズに作成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●活用できる書式ではあるが、研究の時間外に毎単元作成するとなると、作成時間の確保が難しい。 ●Aの欄をそのまま流れ図に記載したり、Cの部分の部分を単元計画表に記載したりできると目標を共有しやすい。 ●単元計画表や通知表とリンクできるとよい。
流れ図	<ul style="list-style-type: none"> ○授業を計画する際に、項目に沿って考えることができる。 ○反省や目指す姿など、次につながるものが簡潔に記入されていて考えやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●単元計画表と重なっている部分（単元を通しての振り返り、過去の取り組み、実態、設定理由等）があるので、一つの書式にして思考の過程を整理できると良い。

各ツールに対する総合的な意見としては、三つのツールについて重なっている部分を簡略化し、リンクできるように書式をまとめられると活用しやすいのではという意見が多く挙げられた。